

「ともかく、われわれは半世紀近くも毎年毎年えびをとり続けた。
時代や社会、そして医療が変わっても、えびとりが変わることは
なかった。結果、初夏の石狩浜に沈む夕日の眩しさと、体を震わす
海水の冷たさは、世代を超えた医局員の原風景となった。
『えびとり』の四文字を耳にすると、同門会長から新入局員まで
同じ景色が胸に去来し、北大耳鼻科で過ごした青春の一ページが
脳裏に蘇る。大げさに言うならば、50年の時を経てえびとりは北大
耳鼻科の一つの象徴となった。」(北大耳鼻科100周年記念誌より)

北大耳鼻科100周年記念行事 えびとり



日時: 7月3日(月曜) 17時 集合(説明会&えびとり&BBQ)
対象: 医学部4・5・6年生、初期研修医 集合場所: 耳鼻咽喉科医局CR

連絡先: 井戸川→



【エビとり】エビとりは北海道大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科において昭和四五年頃から行われていた。毎年六月下旬から七月上旬に石狩湾沖にてエビのバーベキューにして食すという伝統行事である。しかしその生物が一体何者なのかその正体は明らかでない。エビジャコ(蝦雑魚)(学名 Crangon affinis de Haan, 1849)がその正体でないかとする意見が多い。それは節足動物門甲殻綱十脚目エビジャコ科に属するエビである。内湾浅海性で北海道から九州までの各地朝鮮半島中国北部に分布する。エビジャコは石狩湾の他に忍路、函館、厚岸湾、尾岱沼、サロマ湖にも生息していると報告される。体長は約五センチメートルで背腹は扁平である。額角は短く眼柄の先端に達しない。第一胸脚は不完全なはさみで可動指が鎌形である。第二胸脚は著しく細くはさみをもち腕節が多数の節に分かれている。褐色あるせいは黒褐色であるが環境にあわせて体色を変化させることができる。生活史には長短二世代がある。長期世代は二月下旬から四月下旬に産卵されたが秋に産卵したもので半年余の寿命の群である。釣りのまきえに利用されることもある。さて、みなさんそれが一体何なのか知りたくないですか？三年ぶりにえびとり復活します。しかも耳鼻科100年記念！！でバーベキューだけでも大歓迎！みんな遊びに来てね！もちろん来てそれが何なのかはわかりません。

【日時】7月3日(月) 17時(説明会&えびとり&BBQ)

【対象】医学部4.5.6年生、初期研修医

【集合場所】耳鼻咽喉科医局CR

【連絡先】井戸川(いどがわ) → → → → →

